

2. 呼吸器病センター 呼吸器内科

呼吸器内科部長 飛野和則

2023年は、14名のスタッフと4名の専攻医で診療にあたりました。入院を要した疾患で最も多かったものは2022年と変わらず肺癌で、2番目は感染症、そして3番目が間質性肺疾患でした。

肺癌については、今年度も新薬や新たな治療レジメンが使用可能となりました。特に周術期(術前、術後)の治療レジメンに大きな進歩があり、我々も速やかに導入しております。治療方針の決定は年々難しくなっており、呼吸器内科・呼吸器腫瘍内科・呼吸器外科・呼吸器腫瘍外科・放射線治療科・画像診療科とともに週に2回カンファレンスを行い、個々の患者さんにとって最適な方針を協議しております。

間質性肺疾患については、新薬の治験を行いました。福岡県内でも数施設しか行われていない治験であり、来年度はさらにもう一つの新薬の治験施設として選定されました。筑豊地区の患者さんに日本でもいち早く新薬をお届けできることが非常に嬉しく、皆様のご協力のおかげと感謝しております。

喘息については慢性呼吸器疾患看護認定看護師とともに生物学的製剤導入を積極的に進めております。現在5種類の生物学的製剤があり、いずれも当科で使用可能となっております。自己注射を指導し3か月の長期処方とすることで患者さんの医療費負担を軽減することもできますので、管理に難渋されている患者さんがいらっしゃいましたら、いつでもご紹介ください。

これからも我々は知識と技術のアップデートを日々行い、最新の診療を提供できるよう努力してまいり所存です。学会発表、論文発表のアクティビティも保っており、2023年も当科のメンバーがかかわった英語論文を8本publishすることができました。また、2024年は「筑豊呼吸器RENKEIの会」を再開いたします。是非現地でお会いできましたら幸いです。

今後もこれらの活動を通じ、診療の質の向上、地域医療の発展、飯塚発のエビデンス構築につなげてまいります。

1) 入院患者疾患別内訳 (2023年)

疾患	延べ症例数	疾患	延べ症例数
総数	1,727	間質性肺疾患	213
腫瘍性疾患 (内訳)	358	(内訳) 特発性・膠原病関連・薬剤性	202
		放射線肺炎	0
		その他	11
		肺癌	340
		転移性肺腫瘍	2
感染症 (内訳)	288	気道疾患	185
		(内訳) 喘息	79
		COPD	88
		気管支拡張症	18
腫瘍性疾患 (内訳)	358	気胸	44
		胸水	59
		喀血・血痰	38
		睡眠時無呼吸	23
		その他	519
		胸腺悪性腫瘍	14
		胸膜中皮腫	20
感染症 (内訳)	288	肺炎/肺化膿症	155
		胸膜炎/膿胸	26
		気管支炎	26
		結核/結核疑い	25
		COVID-19	6
		その他の感染症	50

内視鏡検査（気管支鏡、胸腔鏡）実績表				
	2020年	2021年	2022年	2023年
総件数	334	366	368	456
観察、痰吸引、気管洗浄	321	350	351	433
直視下生検	17	7	17	25
末梢擦過及び生検	219	183	142	157
BAL	46	53	81	105
胸腔鏡	9	40	10	15
EBUS-TBNA	31	24	40	59
EBUS-GS	45	53	58	93
EWS 充鎮	2	17	3	5
マイクロ波凝固術	0	0	0	0
サーモプラスティ	0	0	0	0
クライオバイオプシー	24	36	51	55
バルーン拡張術/ ステント留置	1	0	0	0
悪性腫瘍に対する 気管支鏡での診断率	85.6% (185/216)	87.8% (195/222)	92.0% (207/225)	89.0% (242/272)